

図書館と私・私と本
利用者の声



小林 敏さん (藤久保在住)
三芳町立図書館協議会委員長

紹介本は『明治維新1858-1881』(坂野潤治・大野健一著 講談社現代新書)。経験しなかった、又は知らなかった品滅のせいかつや想い(思想)、自然や社会の仕組み、歴史の評価・解釈などを知るのは、本を読む楽しみである。この本は、日本を近代国家にするために、幕末維新期指導者が、いかに可変性・多義性と柔軟性を持っていたかを描いており、知るという楽しみを満足させてくれる一冊であった。



萩野 安美さん (藤久保在住)

紹介本は『花冷え』(北原亞以子著 講談社文庫)。7年前、本を声に出して読むという「朗読」をワークショップからスタートさせ、年一度の発表会も行っています。一番時間をかけるのがテキスト選びです。じっくり選んだ今年の作品は、本書に掲載された短編「胸突坂」です。主人公はもちろん女性で、どん底から立ち上がる心の動きを自分の声で表現できればと思っています。情報が氾濫する毎日だからこそ、生活のごく近くに図書館があり、本を通じてゆっくり心で感じる時間が持てるということが大切なのだと思います。



大西 一弘さん (みよし台在住)

紹介本は『日本史再発見-理系の視点から-』(板倉聖宣著 朝日選書)。好奇心旺盛な私は、中央図書館の新書コーナーが充実しているので重宝しております。歴史、地球科学、俳句、健康、旅関係をよく読みますが、今はこの本にはまっております。人口の推移からみた江戸時代の前半後半、また明治維新の評価など旧来の歴史の常識とは違う視点が面白く、大変説得力のある本です。70歳目前の私は、健康維持とボケ防止にと町内で開かれる講演会、車人形など積極的に向かっていますが、一番利用しているのが図書館です。自転車で週三回は出かけています。

読書の秋
本に親しむ



↑週末の新聞雑誌コーナーはほぼ満席!



「また来てね!」6か月~1歳の「ぐりぐらタイム」終了後

豊かなひとときを!

一親しみやすい、暮らしに役立つ図書館を目指します—

住民一人当たりの貸出冊数が3年連続で県内首位の町立図書館。子どもの読書活動推進事業で高い評価を得る一方、住民の身近な情報収集の場として、また憩いの場として親しまれています。

問い合わせ 中央図書館 ☎258-6464



↑テーマ展示でおすすめ本を紹介

◆今、図書館では…

ベストセラー以外では、時代小説を好んで読まれる常連さんが多く、池波正太郎、平岩弓枝など大御所はもちろんのこと、最近では佐伯泰英の作品がひっぱりだこです。



「いっぱい借りてくれました!」三芳小2年生 図書館利用体験授業



何か調べものですか?



読書席の利用者年間7,933人

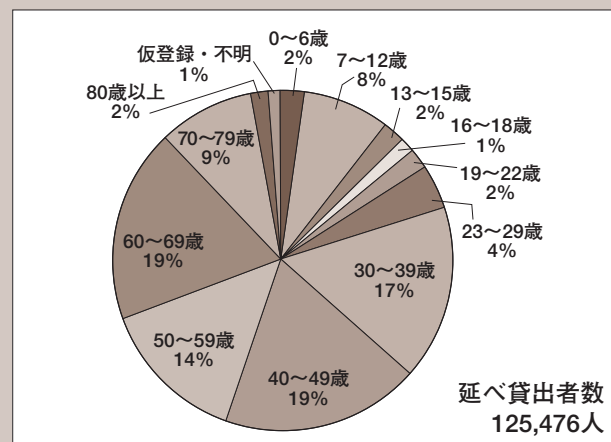
児童書では、おはなし会や学校訪問で職員が紹介した絵本や読み物がよく借りられています。毎日のように来館し読書を楽しんでいる人もいます。

MIYOSHI's Library DATA

貸出者数 (個人利用のみ)

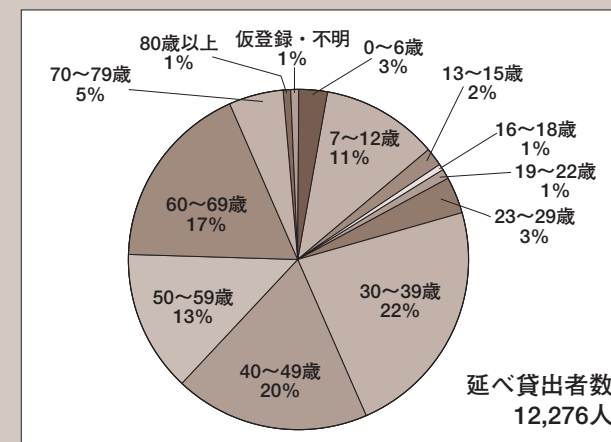
平成22年度の貸出者数は延べ137,752人。1回の利用で1人平均2.37冊の本を借りている計算になります。

平成22年度中央図書館年齢別貸出者数



年代別では、家族ぐるみの利用が目立つ40歳代が最も多く、他市町村と比べると60~70歳代の利用が多いのも特徴です。

平成22年度竹間沢分館年齢別貸出者数



ベストリーダー

《期間》平成23年3月~9月 / ()内は貸出回数

〈一般書文学〉

- 1位 『1Q84-a nobel-Book1 4月-6月』 村上春樹著 新潮社 (94回)
- 2位 『1Q84-a nobel-Book2 7月-9月』 村上春樹著 新潮社 (92回)
- 3位 『カッコウの卵は誰のもの』 東野圭吾著 光文社 (91回)
- 4位 『1Q84-a nobel-Book3 10月-12月』 村上春樹著 新潮社 (89回)
- 5位 『新参者』 東野圭吾著 講談社 (85回)

〈児童書〉

- 1位 『かわいいこねこをもらってください』 なりゆきわか作 垂石眞子絵 ポプラ社 (67回)
- 2位 『へんてこもりにいこうよ』 たかどもほうこ作・絵 偕成社 (58回)
- 3位 『わにのはいた』 マーガレット・ドリアン文と絵 大日本図書 (56回)

〈絵本〉

- 1位 『ぐりとぐらのかいすいよく』 中川李枝子さく 山脇百合子え 福音館書店 (103回)
- 2位 『がたんごとんがたんごとん』 安西水丸さく 福音館書店 (94回)
- 3位 『おばけのバーバパパ』 アネット=チゾンさく タラス=テイラーえ 偕成社 (90回)